

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立萩原中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒491-0376 愛知県一宮市萩原町串作字河室浦1番地
E-mail hagiwara-j@city.ichinomiya.aichi.jp
Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~hagiwara-j/
幼児児童生徒数 男子 255名 女子 233名 合計 488名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「校訓の精神を、学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましく生きる力をもった生徒の育成」を学校理念として、ESDの実践を通して「地域に見守られ地域で活躍する生徒の育成」を目標とした。

具体的には、①人権・福祉教育、②キャリア教育、③環境教育を柱に、活動を行った。

①人権・福祉教育

【第1学年】「障害者や高齢者に優しい社会を実現しよう」

(総合的な学習の時間) <9～12月>

・「福祉実践教室」で、障害のある方を招いて話を聞き、障害のある方の気持ちや援助の仕方を理解した。また、車いすの体験、点字、高齢者疑似体験等も行った。社会福祉に対して、自らの問題としてとらえる良い機会となった。

【第2学年】「幼児の生活と家族」(技術・家庭科)

<9月～12月>

・幼児の心身の発達と生活について学び、家族とのかかわりの重要性について考えながら、保育園で幼児と接することで、幼児期の特徴やかかわり方について学んだ。生徒たちは、幼児と楽しく過ごす中で、幼児の立場や思いを受け止めて行動することの難しさを感じ取っていた。

【全学年】

・町民運動会，敬老会，公民館祭りなどの地域行事へのボランティアに多くの生徒が積極的に参加し，地域社会の一員として貢献した。地域の方の温かい声かけもあり，ボランティア活動を通して，他人のため，地域のために活動できたことに喜びを感じていた。また，12月には人権教育講演会を開催した。

②キャリア教育

【第1学年】「夢の実現に向けて」（総合的な学習の時間）＜1～3月＞

・身近な人の働く姿や職業について調べ，レポートにまとめながら，将来の自分のことを真剣に考えることができた。

【第2学年】「職場体験」（総合的な学習の時間）＜6～2月＞

・国語や学級活動の関連内容と結びつけながら，職業や上級学校について調べた後，8月に職場体験を行った。また，10月にはキャリア週間を設定し，「おやじの仕事語る会」でおやじの会の方から様々な職業の話聞いた。身近な人の生の声を聞くことで働くことの喜びや責任などについて学ぶ良い機会となった。

③環境教育

【全学年】「資源回収活動」（総合的な学習の時間）＜7月，11月＞

・地域住民とともに資源回収活動を行う中で，正しく分別することなど資源として出す際の注意事項について学んだ。また，積極的に地域の人々と関わり，地域に貢献することの大切さに気づく機会となった。

【委員会活動】＜全期間＞

・生活委員会，緑化委員会が節電・節水を呼びかけた。美化委員会は，教室のごみを分別できるように，ゴミ箱，新聞回収ボックスを設置し分別回収を呼びかけた。給食委員会が，残菜チェックを行い，食に関心を高める呼びかけを行った。

生徒一人一人が環境問題へ目を向けるきっかけとなった。



①人権教育 福祉実践教室



①福祉教育 社会福祉ボランティア



②キャリア教育 仕事を語る会



③環境教育 資源回収

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「地域に見守られ地域で活躍する生徒の育成」をめざして①自分とのかかわり、②他人とのかかわり、③地域社会とのかかわりの3つの視点から総合的な学習の時間を中心に、生徒が地域で活動したり地域の方を学校に招いたりする活動を意図的に取り入れ、生徒と地域の方とのかかわりを深め、地域に見守られ地域で活躍する生徒を育てる取り組みを進めている。また、本校の学校経営案にも総合的な学習の時間全体計画を載せ、全校あげて計画にそって活動を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

コミュニティスクールとして、地域づくり協議会のメンバーや公民館長と、教員、保護者と話し合いのできる場を設け、活動を進めている。その一環としてあいさつ運動を保護者の方と協力して行うことや、公開授業の場も設け、保護者や地域の方から意見をいただくことをしている。また、おやじの会との連携で生徒と、地域の方との関わりの場も積極的に設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各学期末に生徒対象に、授業アンケート項目をいくつか設定し授業アンケートを行っている。また、保護者へのアンケートを年間を通して行うことによって、今の学校の現状を把握することができ、教職員や学校の改善点を明確にし、次学期や次年度へとつなげている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

保護者や地域とのかかわりを深めるためにも、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を積極的に展開している。また、ホームページ等で日ごろの生徒の活動、活躍を情報公開することにより、地域理解につなげている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

年間を通して、地域の方や保護者の方々とのコミュニティ・スクールを展開したり、おやじの会など保護者・地域の方と生徒・教員との関わる機会を意図的に実施していくことで、多くの方との関わりを深めることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は交流活動を行うことができませんでした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域の方や保護者が、生徒の様子や教員の指導について良い面を多く見つけて会議の場で話をしてもらえるようになった。地域の安全面を大人の方々が見守るようになり、地域の方々にも積極的に声をかけていただけるようになった。
あいさつ運動にも参加していただけるようになり、生徒の健全育成にも働きかけをしてもらえる機会が増えた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間の活動

・行事と関連させて、事前の調べ学習や現地調査、事後のまとめ学習や発表を意図的に計画して実践する。

・学年ごとのテーマを掲げ、それを受けて個人テーマを生徒自身が考えて、1年間を通して調べ学習を中心に研究を進める。学期末、学年末に研究のまとめや発表を行う。

1 学年「進路」「福祉と自分」

・働く人々の姿や職業について学び、自分の個性について理解を深め、将来の自分について考える。

・福祉実践教室、ボランティア活動を通して社会福祉について考える。

2 学年「環境」「進路」

・野外活動において、「ひるがの」の自然に直接触れ、改めて自然、環境について考える。

・地域の方から学ぶ会、職場体験、職場訪問、上級学校の調べ学習を通して自分の進路について考える。

3 学年「将来の生き方と進路選択」

・修学旅行において、漁村の人々の暮らしや都会の生活に触れ、生き方について視野を広げる。

・上級学校について学び、進路選択をしていく中で、自分の将来の生き方について考える。